

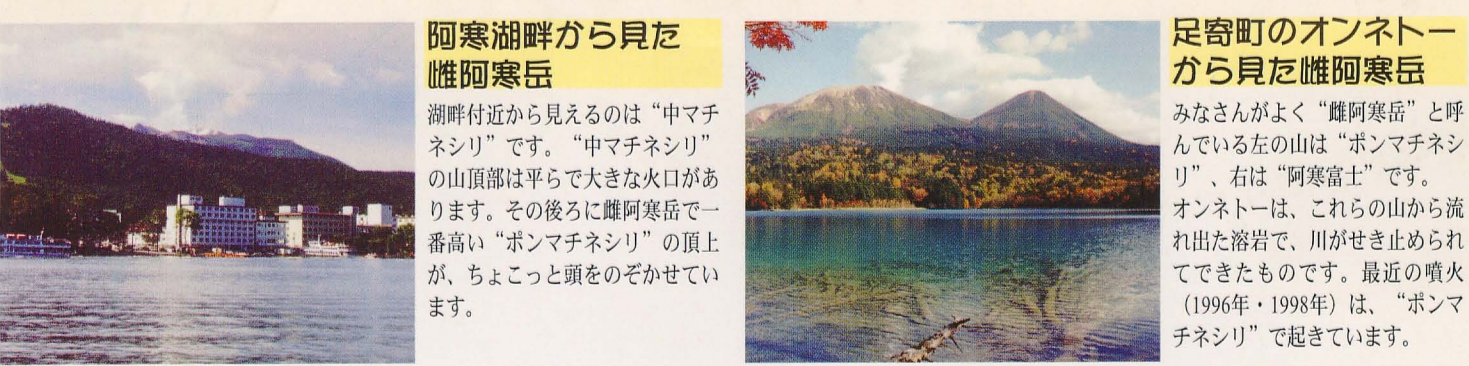
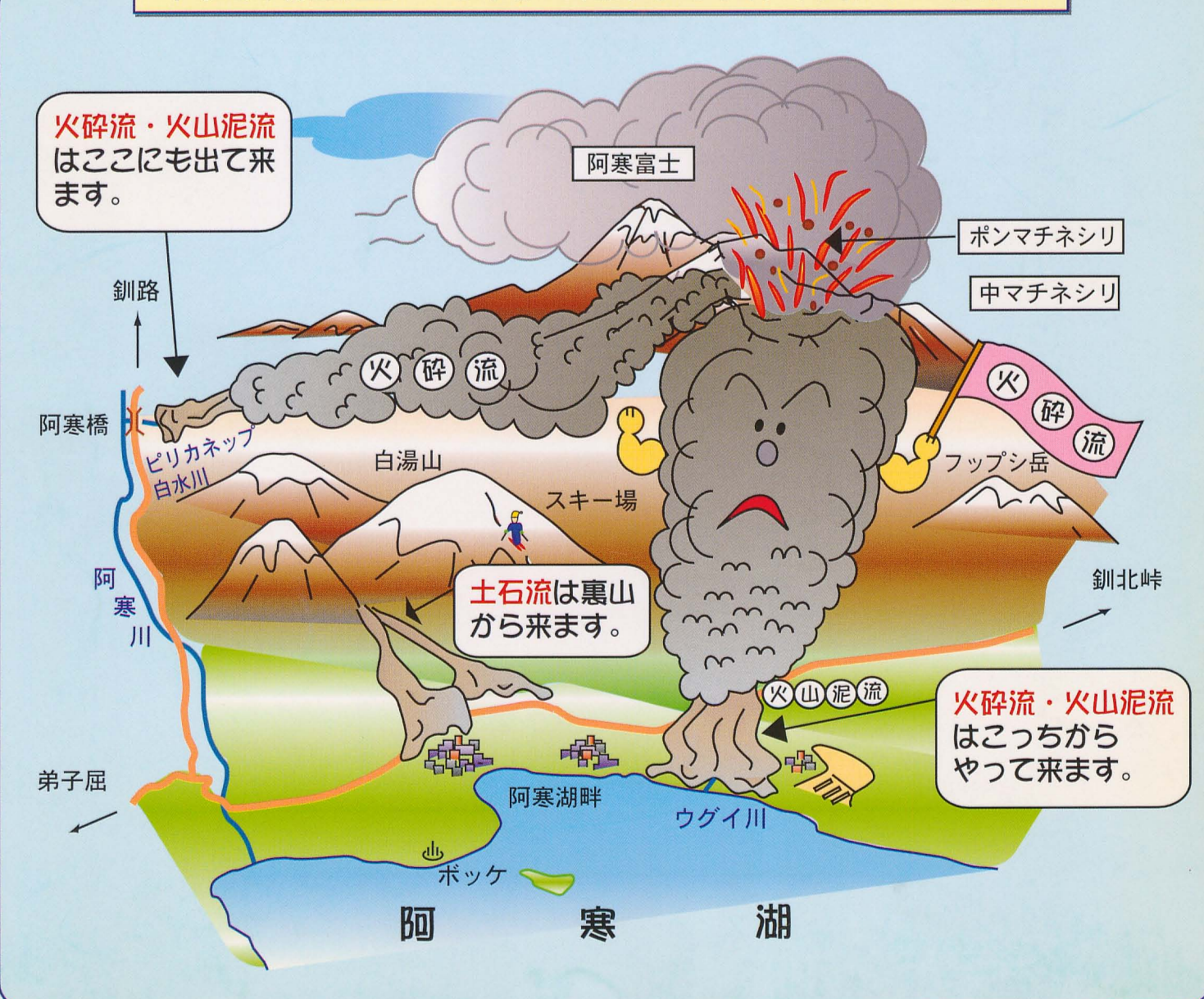
雌阿寒岳防災かわら版

阿寒町

第1号 (町内家庭向け保存版)

このマップの目的
1996年、1998年と最近2回の小噴火を起こした雌阿寒岳は、私たちの町にとっては、温泉や湖をつくり、素晴らしい風景と自然の恵みを生んでくれた母なる山です。これからも私たちがこの山の恩恵を受けながら暮らしていくためには、この山のことをもっとよく知っておくことが大切です。「雌阿寒岳防災かわら版」の第1号は、アンケートでみなさんの要望が多かったポスター型とし、雌阿寒岳をいつも身近に感じられるよう、各家庭での利用を考えてつくりました。町では、これからも新しい情報、子供向け、観光客向けなど、形をかえながら、マップをつくってきたいと考えています。 1999年8月作成 阿寒町

阿寒湖上空から見た雌阿寒岳大噴火の絵図



わが家の避難場所は!?

家族で確認しておきましょう!
く右のハザードマップに番号で位置を示してあります。>

番号	避難場所名	電話	番号	避難場所名	電話
①	阿寒小学校	66-3252	⑭	西郷多目的研修集会所	68-7126
②	阿寒中学校	66-3351	⑮	布衣内小学校	69-2204
③	阿寒町総合センター	66-3663	⑯	布衣内中学校	69-2137
④	阿寒公民館	66-2222	⑰	布衣内コミュニティセンター	69-2111
⑤	阿寒町農業者トレーニングセンター	66-3653	⑱	仁々志別小学校	60-8021
⑥	橋本センター	66-2010	⑲	仁々志別多目的センター	60-8024
⑦	旭町南の家	66-2009	⑳	東栄集会所	-
⑧	北会館	66-3811	㉑	阿寒湖小学校	67-2673
⑨	下舌集会所	66-2855	㉒	阿寒湖中学校	67-2529
⑩	タンチョウの家	66-2361	㉓	阿寒湖畔福祉センター	67-2427
⑪	中郷別小学校	68-7131	㉔	阿寒湖畔老人の家	67-2110
⑫	穂別多目的センター	68-7037	㉕	若草会館	67-2016
⑬	上郷別集会所	68-7248	㉖	阿寒湖畔トレーニングセンター	67-2162

阿寒湖畔の緊急一時避難所・・・一時的な避難所です。
注意:避難場所と間に合わない場合など、一時的に避難することができます。一般客に迷惑のからぬ様、エチケットを守ってください。

番号	施設名	電話	番号	施設名	電話
△	ニュー阿寒ホテル	67-2121	△	阿寒ユースホテル	67-3131
△	阿寒ランドホテル	67-2531	△	ホテル山頂	67-2311
△	ホテル朝水	67-2031	△	阿寒観光ホテル	67-2611
△	ホテル阿寒湖荘	67-2231	△	阿寒ロイヤルホテル	67-2421
△	ホテルエメラルド	67-2011	△	阿寒湖バスターミナル	67-2655

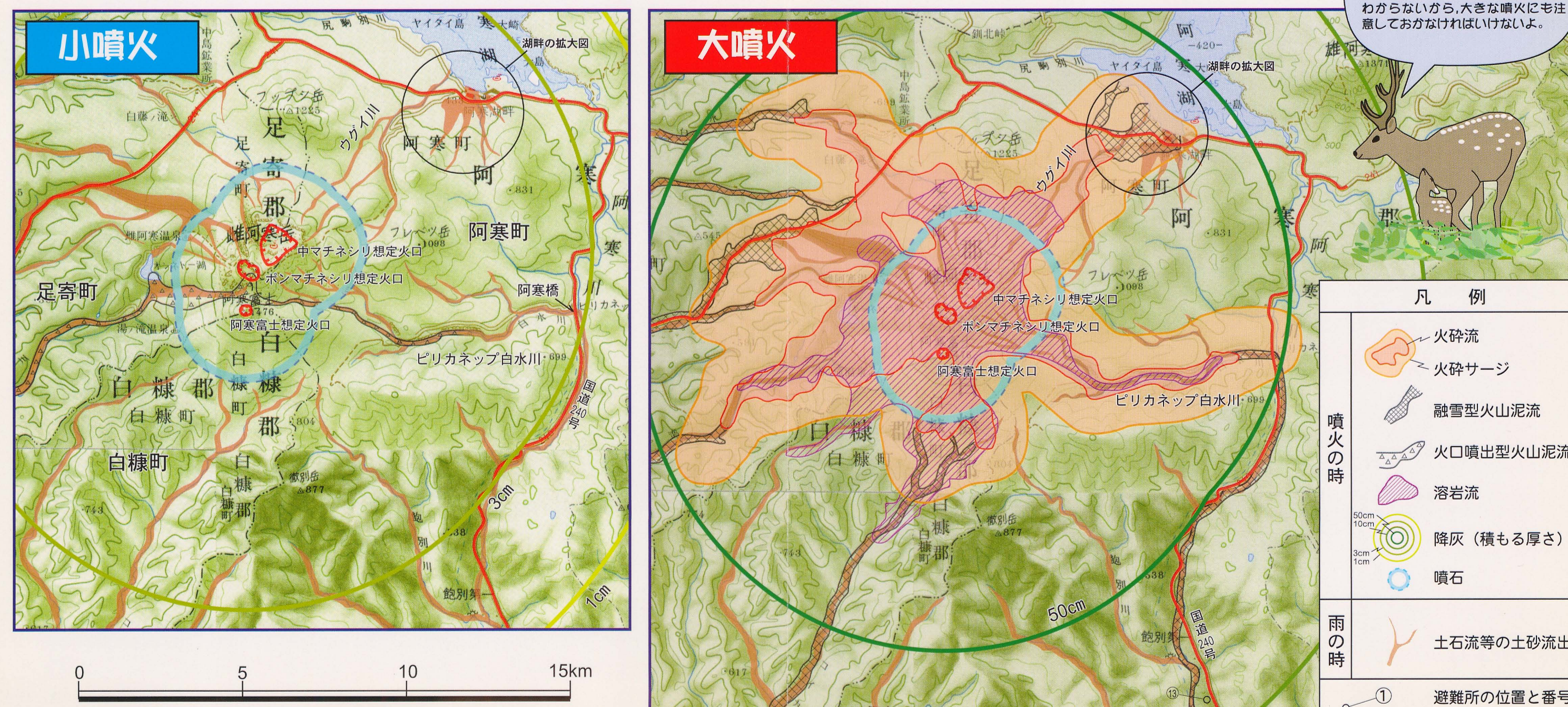
噴火の大きさによっては危険となる避難場所もありますので、役場の指示にしたがって避難あるいは移動してください。
大きな噴火の危険がある時には、阿寒湖畔地区は全員退去し、阿寒本町あるいは近隣市町村への避難が必要となる場合もあります。
ハザードマップを見て危険なところを覚え、避難時にはそのような場所を通らないようにしましょう。

発行・問い合わせ先: 阿寒町 総務課総務係 0154-66-2121
監修: 勝井 義雄 (北海道大学名誉教授)、宇井 忠英 (北海道大学教授)
資料提供: 北海道釧路土木建築所 製作: 国際航業株式会社

雌阿寒岳ハザードマップ

マチネ・シリ (はてある・山) が怒るとき...

雌阿寒岳はいくつもの山からできています。そのうち、今後、噴火を起こしやすい3つの山(「中マチネシリ」、「ボンマチネシリ」、「阿寒富士」)が噴火したときに起こる現象と危険な場所を予想したものが、このハザードマップです。「大噴火」は過去1万2千年の噴火の歴史から、規模を最大に見積ったもの、一方、「小噴火」は最近千年の活動から起こりやすい規模を想定したものです。過去には実際に、千年ほど前に溶岩流が、古くは3千年に一度は火砕流が発生しており、ここで想定した大と小だけでなく「中噴火」も起こります。ハザードマップの危険区域はこうした様々な噴火の目安を示したものです。



どこで・どんな災害が...?

- 小噴火**
 - 降灰は、山麓で厚さ数cm以下です。火山灰の吸引による気管障害や視界不良による交通障害に注意します。
 - 火口噴出型の火山泥流が発生することがありますが、おもにオンネーへ下ります。阿寒町側はあまり影響ありませんが、国道240号の阿寒橋では、ピリカネツ白水川の増水に注意します。
 - 中噴火**
 - 降灰は、山麓で厚さ数cm程度になります。火山灰の吸引による気管障害や視界不良による交通障害に注意し、所によっては灰の除去を行います。
 - 中マチネシリ噴火の時、火砕サージがウグイ川・ピリカネツ白水川の途中まで下ってきます。直接の被害はありませんが、危険度が高まるので湖畔での避難や国道の通行止めが考えられます。ボンマチネシリや阿寒富士噴火の時は、阿寒町ではこのような危険は少ないです。
 - 溶岩流はウグイ川・ピリカネツ白水川沿いに流れ下りますが、直接の被害はないでしょう。避難する余裕はあるので、湖畔や国道で警戒・監視をします。溶岩流が堰き止めた時には氾らんに注意が必要となります。
 - 積雪期に火砕流が発生すると、融雪型の火山泥流がウグイ川・ピリカネツ白水川を下ります。湖畔の西部地域でウグイ川が氾らんとしたり、ピリカネツでは国道(阿寒橋)を越えて流れることもあります。積雪期に火砕流発生の際には、川沿いの低い土地では警戒や避難を考えます。 *「中噴火」の図はありません。
 - 大噴火**
 - 降灰は、湖畔で厚さ50cm以上、上郷別10cm、町の中心部でも数cm程度になる恐れがあります。10cm以上積ると、屋根がつぶれるなどの被害が出始めます。湖畔へ上郷別では車両の通行は困難になります。
 - 中マチネシリ噴火の時、火砕サージが湖畔市街地やピリカネツの国道(阿寒橋付近)に達し、火災を起こします。雌阿寒岳周辺には近づけません!! 湖畔地区全域で事前の避難が絶対必要です。ボンマチネシリ噴火の時、火砕サージはピリカネツに達します。湖畔には達しないと考えられますが避難が必要で、ただし、ピリカネツ(阿寒橋)付近が危険です。国道方面への国道は通行不可能です。
 - 溶岩流はウグイ川・ピリカネツ白水川沿いに流れ下りますが、直接の被害はないでしょう。溶岩流が堰き止めた時には氾らんに注意が必要となります。
 - 積雪期に大規模な火砕流が発生すると、融雪型の火山泥流がウグイ川・ピリカネツ白水川を下ります。湖畔の西部地域で広範囲に氾らんとするほか、ピリカネツ白水川からは阿寒川の下流まで流れることも考えられます。湖畔での事前避難はもちろん、阿寒川下流の町内全域で、川沿いの低い土地での警戒や避難が必要です。
 - 大中小噴火共通**
 - 雌阿寒岳では、噴石は火口から約2kmの範囲が危険区域と考えられています。オンネー方面は注意が必要ですが、阿寒町では人の山麓には到達しないでしょう。
 - 地震・空振による被害は報告されていませんが、歴史が浅いこともありまったく安全とは言えません。岩割など発生する可能性は低いと思われませんが、もし発生した場合は、火砕流と同じくそれ以上速くまで土砂・岩石に埋め尽くされることも考えられます。
 - 火山灰が数cm以上積もった地域では、少しの雨でも沢や裏山の斜面で土石流やけ崩れが発生しやすくなります。降灰地域では、雨の時にはその付近の沢・斜面に注意し、大雨が予想される時、あるいは泥水が流れてくるような時には避難します。
 - 噴火のない時**
 - ふだんでも噴煙(噴気)には、有毒な火山ガスが含まれており、火口近くの登山道や噴気帯(ボック)、温泉でも中毒を起こすことがあります。風のない日は凹地は特に危険です。
 - 土石流は、噴火にかかわらず普段でも大雨の時に発生することがあります。湖畔のチッ川と湖畔沢川など、土石流危険深淵に指定されている沢流もありますが、大雨時には、その他の沢流やちよとした沢地形でも、土石流や土砂の流出に注意する必要があります。
- この表は、阿寒町での災害の時期や場所と状況、注意・対応策などをまとめたものです。

災害に備えて

ふだんから次のようなことを覚えて注意や準備をしておきましょう。

火山噴火のまえばれ!?

こんな異常現象を見つけたらすぐ通報!

阿寒町 総務課 (0154) 66-2121
釧路地方気象台 技術課 (0154) 41-4440
警察 110 消防 119

- 地震の頻発**: 地動・地鳴り
- 湖・川の変化**: 変色・濁り・水温上昇・におい 有毒ガス・水蒸気、魚介類の死滅
- 地形の変化**: 土地の隆起・沈没、地割れ・山崩れ・けずれ 湖岸の前進・後退
- 温泉・湧水の変化**: 新しい湧出、量・温度・色・においの変化
- 噴気の変化**: 新しい噴気(ガス・水蒸気)、噴気量の拡大 噴気量・色・におい・温度の変化

敵を知る...噴火現象

- 降灰**: 火山灰や軽石が降り積もる際は、風向でも暗くなる場合があります。車の通行に注意し、灰を吸い込まないようにしましょう。小石が混入することもあるので、顔にも注意しましょう。
- 噴石**: 直径数cm以上、時にはメートル以上の大きな噴石が降り積もります。風の影をあまり受けないように、火口から数km以内の範囲に落下します。コンクリートの屋根にも穴をあけることがあります。
- 火砕流・火砕サージ**: 高温の火山灰・石・火山ガスなどが混ざり合ったものを火砕流。火砕流は、溶岩流が火砕サージといいますが、時速100kmを超える場合もあり、温度も数百℃に達するので、発生してから避難は困難です。ちよとした山は乗り越えて、すぐを焼きつくします。
- 溶岩流**: ドロドロに溶けた溶岩が低い所を流れてきますが、先鋒部は固まりつつあるのでガラガラと崩れながら押し寄せてきます。速度が遅いので徒歩でも逃げられます。発生してから避難は困難です。ちよとした山は乗り越えて、すぐを焼きつくします。
- 火山泥流**: 泥・石・水が混ざり合って谷を下ってくるもので、火砕流の熱などで雪が融かされて発生するものを融雪型火山泥流。火口から直接流れて流れるものを火口噴出型火山泥流といいますが、時速数kmに達し、量が非常に多いので、はもて大変危険に陥らんとする恐れがあります。高台に逃げましょう。
- 土石流**: 雨によって土砂・石・水が混ざり合って谷を下ってくるものを土石流といいますが、谷の出口で氾らんとし家屋などを壊します。川沿いの雨でも土石流が発生しやすくなります。川の近くや谷の出口に近づかないようにしましょう。

その他の災害
噴火によって山の一部が壊れると、大きな崩れとなって多量の土砂・岩石がふもとに流れ下る「岩割(がんせつ)なだれ」が発生することがあります。規模の大きな「地震」や、爆発に伴う空気の流れによる「空振(くうしん)」で、建物や窓ガラスに被害が及ぶことがあります。最近、雌阿寒岳で発生している「水蒸気爆発」は、地下のマグマの噴出を伴った「火砕流」や「溶岩流」の発生につながる可能性もあります。有毒な「火山ガス」は、ふだんでも谷筋を流れ下ったり、風のない日には凹地にたまりやすいため、登山道やボック・温泉などでは常に注意しましょう。

非常持ち出し品の準備

- 食料品・飲料水
- お年寄りがいる家庭
- その他
- 貴重品
- 応急医療品
- 赤ちゃんがいる家庭

◎非常持ち出し品はいつでも持ち出せる場所に備えておきましょう。

もし噴火が始まったら

あわず、落ち着いて行動しましょう!

気象台が発表する火山情報に注意しましょう。

最も「危険」な時の「緊急火山情報」
「注意」又は「噴火」を知らせる「臨時火山情報」などがあります。

テレビやラジオ、行政機関の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。

どこでどんなことが起こっているのか、このマップで確かめましょう。

テーマに感われないようにしましょう。

現在の科学技術では、日時や場所を正確に示した噴火予報はできません。

町長から避難勧告などの指示があった場合にはそれに従いましょう。

そんなことが起こるわけない。わが家は大丈夫...と思いはけません。

避難する時はこんな格好で!

避難は早目に。明るいうちに。安全な場所へ。

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地形図を複製したものである。(承認番号) 平11地復 第860号)